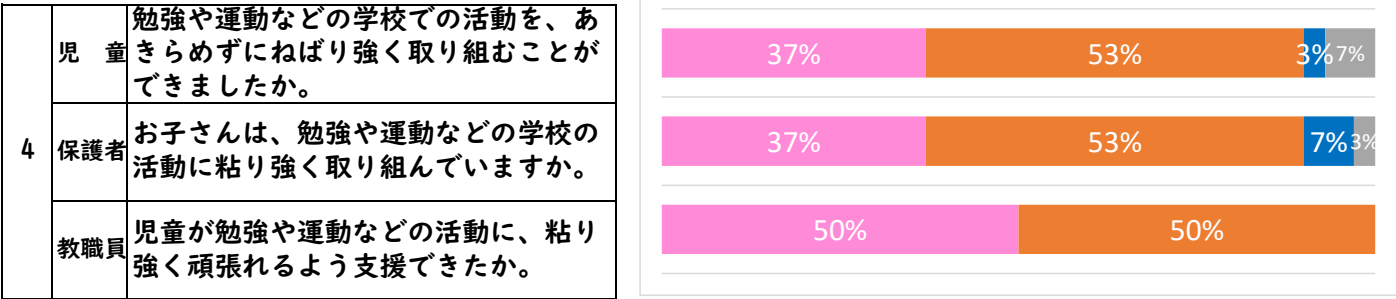
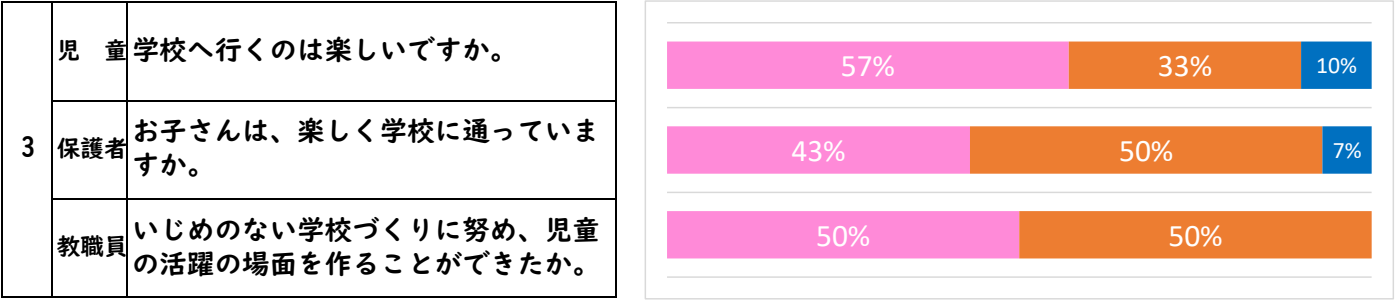
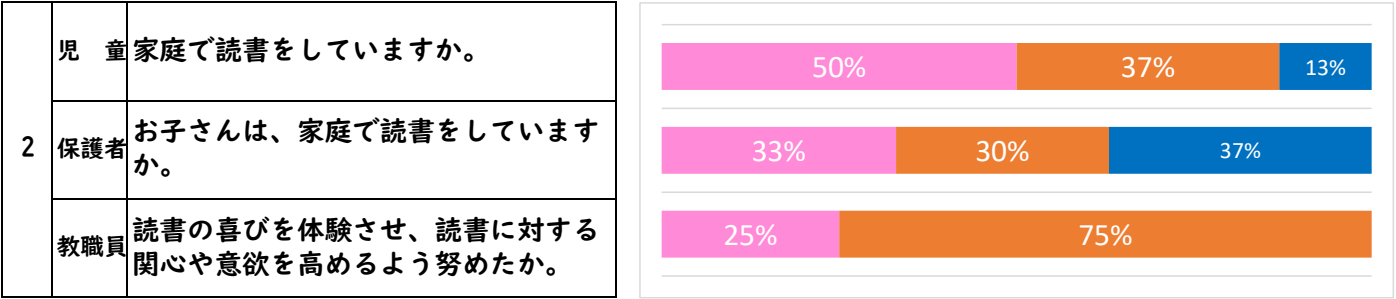
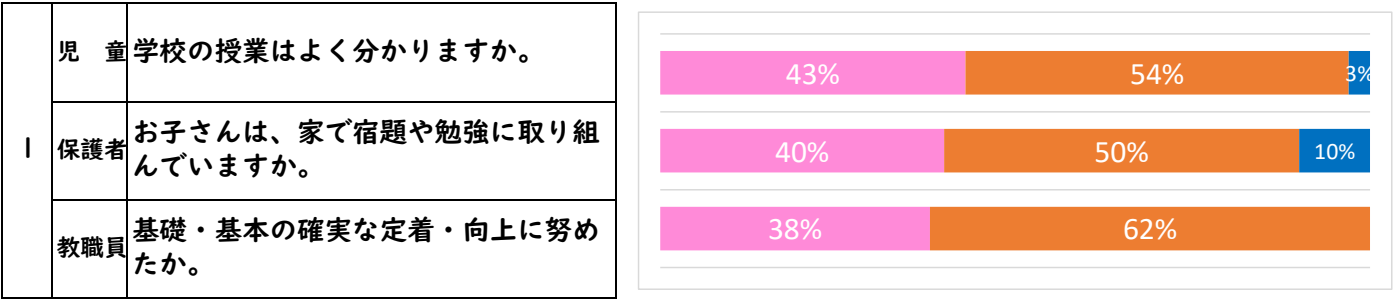


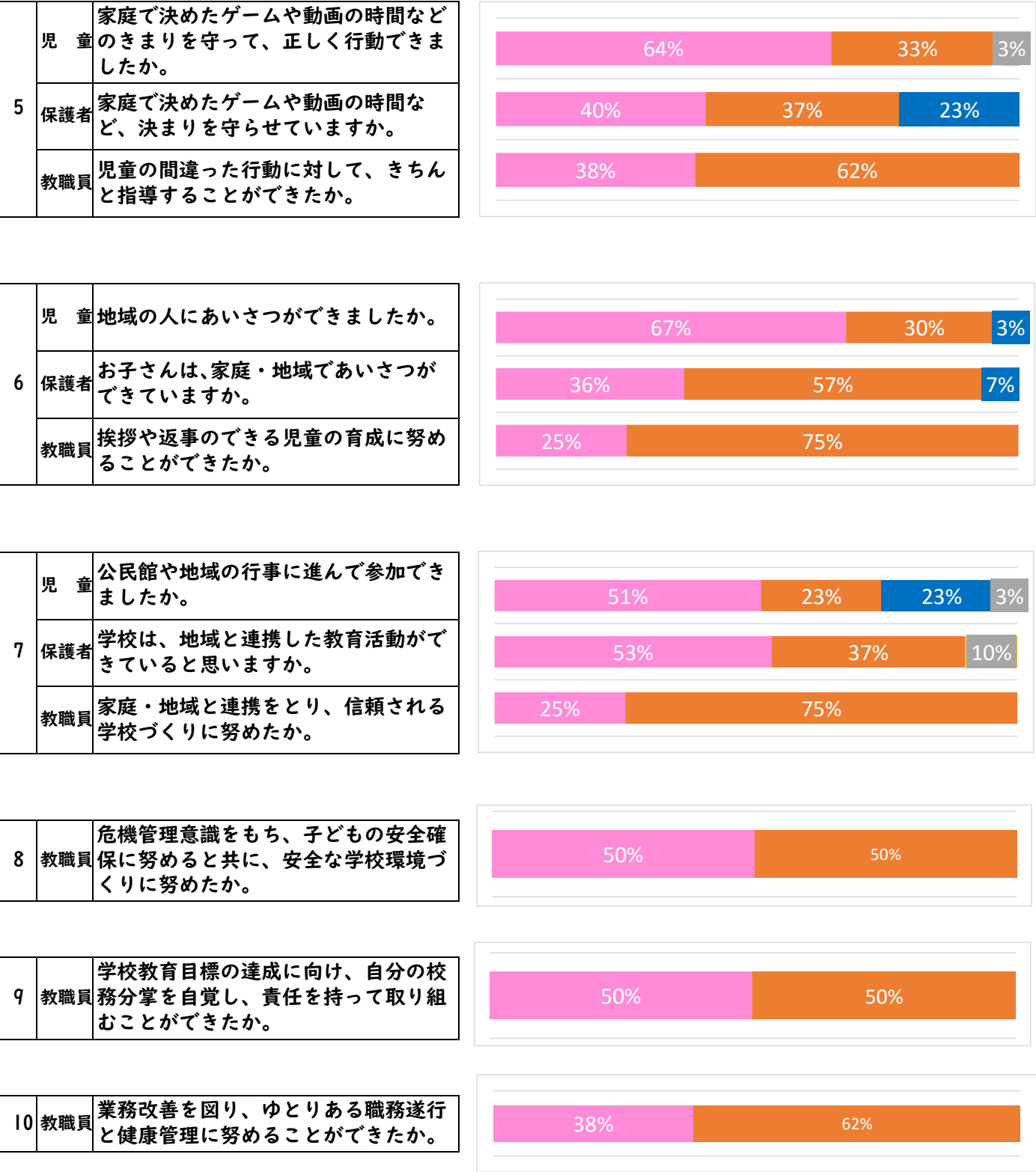


- ともに学び、考え、正しく行動しようとする児童の育成に努める。
- 困難や目標に向かって挑戦し、やり抜こうとする態度を育てる。
- 双岩小学校学校運営協議会を活用し、温かい地域の中で、認め合い、助け合える集団を育成する。



＜考察と後期への方向性＞

| ＜考察と後期への方向性＞ |                                                                                                                                                                       |
|--------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1            | 学習における評価については、児童、保護者、教職員ともに概ね良好な結果として捉えている。ただし、家庭での学習においては、（保護者：思わない3人・10%）課題が見られるため、改善が必要である。全国学テなどの分析結果もふまえて、効果的な取組を行っていきたい。                                        |
| 2            | 読書については、家庭での読書に課題が見られる。（児童：思わない4人・13% 保護者：思わない11人・37%）学校では、平時の活動に加え、保護者による読み聞かせボランティア、県立図書館とのタイアップによるブックトークなどを行い、児童の読書に対する意欲や関心を喚起している。後期は、親子読書を奨励し、家庭での読書も充実させていきたい。 |
| 3            | 学校では、学担による対面式の教育相談を中心に、やわたはま元気ノート・ジブンミカタプログラム等を利用して児童理解に努めている。現在は、いじめについても大きな事案は発生していない。今後も児童と向き合う時間を確保したり、家庭との連携を深めたりする取組を継続していきたい。                                  |
| 4            | 「勉強や運動などの学校の活動に粘り強く取り組んでいる」の項目は、児童、保護者ともに高い評価であった。（思う・やや思うの合計90%）児童が運動会や水泳記録会などに向けて、精一杯取り組んだことで成果として実感することができた。後期も達成感を得られる教育活動を展開していきたい。                              |



|              |  |                                                                                                                                                                         |
|--------------|--|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ＜考察と後期への方向性＞ |  |                                                                                                                                                                         |
| 5            |  | 質問に対して、保護者（やや思う37%・思わない23%）という結果が出ていることから、ゲームや動画視聴における状況は芳しくない。学校では関連のある教科で指導を行い、家庭では子供との話合いでルールを決め、遵守する環境づくりを励行したい。                                                    |
| 6            |  | 挨拶については、高い評価結果（思う・やや思う90%以上）となった。登校中は、あいさつ運動などを通して習慣化されつつあるが、個人差を感じる場面が少なくない。挨拶は大切なコミュニケーション手段だけでなく、防犯（不審者への対応）の効果もあることから、しっかりと身に付けさせたい。                                |
| 7            |  | 児童の（思わない7人・23%）については、個人で利用頻度が違うため曖昧な割合であり、公民館行事などには多くの児童が参加している。学校と地域との連携についても高い割合（保護者：思う・やや思うの割合合計90%）を示している。後期も学校、家庭、地域が協力して子供たちを育てる関係性を保持していきたい。                     |
| 8            |  | 前期は、避難訓練（地震）や学校設備の安全点検、救命救急法講習会などを通して、安全な学校環境づくりに努めてきた。（思う50%・やや思う50%）後期も抜き打ちの避難訓練、引き渡し訓練などを予定している。万が一に備えるために、危機管理意識を高める取組を工夫していきたい。                                    |
| 9            |  | 今年度は、来年の統合に向け、例年以上に業務が増加している。その中で、教職員が協力して教育活動に取り組んでいる。（思う50%・やや思う50%）学校教育計画の重点目標を達成させるために、後期も学校行事や体験活動を工夫し、双岩っ子に必要な力を身に付けさせたい。                                         |
| 10           |  | 大幅な業務削減には至らないが、できるだけ教育活動を精選し、負担感の少ない取組を行ってきた。（思う38%・やや思う62%）ゆとりの部分では、校時を調整して放課後の事務処理の時間を確保するなどの改善策をとっている。教職員が心身ともに健全であることが、高い教育効果を生み出すことができる。後期においても、場面に応じて改善策を講じていきたい。 |